

啄木のふるさと『もりおかの短歌』

第1回年間グランプリ決定！

年間グランプリ（1首）

車椅子押して
石割桜観る
白寿の父の目線に合わせ

東京都江東区 藤村 清彦

審査会講評

「現代のキーワードともいえる『目線』を入れた作品。車椅子に座る父親の目線に合わせてかかんでいる作者の姿が見えるようで、白寿になった父親を思う優しさが感じられる。歌の構成もしっかりしており、「盛岡」を象徴する石割桜が詠まれていることと「盛岡」をイメージできる作品となっている。」

受賞者からのコメント

「このたびは、過分のご評価を戴き、光栄に存じております。今回の受賞作は、そのまま父の願望もそうだろうと詠んだものです。次なる願いは在宅のまま100歳を迎え、外出は不能でも「お八幡さん」のドンコドンコというお祭り太鼓を聴くことでしたが、その父も7月に他界いたしました。介護のため盛岡に滞在しておりました私も、ふるさと盛岡の久しぶりの風物と人情に癒されることしきりです」



7月29日、年間グランプリ記者発表の様子

準グランプリ（2首）

「どこから来た」「もう帰るのか」
啄木の部屋に長居し
彼の声きく

京都府京都市 小坂純一郎

「石をもて追はるるごとく…」
リストラの我が身重ねて
記念館観る

茨城県かすみがうら市 石井 明

奨励賞（3首）

不來方の城に登りて空見れば
彼の人も見し
雲の流れかな

東京都西東京市 石川 寛子

つなぐ手の指輪のサイズ知りたくて
ゆつくり歩く
雪あかりの街

岩手県盛岡市 梅津 利之

草の根と人の技とが
脈を打つ
南部しぼりの紫の艶

千葉県市川市 福田かしこ

受賞作品全体に対する審査会講評

「今回の受賞作品6首のうち3首が啄木をイメージさせる作品となり、あらためて短歌といえは啄木、そして啄木の持つ力強さが感じられた。切なさや寂しさといった作者の状況が、啄木と重なりあつてよく表現されている。全体的に「盛岡」をイメージできる短歌として、力強さや哀愁、何気ない日常の風景、作者の気持ちなどが素直に表現され、いずれもレベルの高い作品となっている。」

